

第2学年2組 保健体育科学習指導案

授業者 朝川 洋明

1 単元名 「応急手当の意義と基本・心肺蘇生法の流れ（実習）」

2 目標

- (1) 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因、傷害の防止、応急手当の意義と実際について、理解することができるようにするとともに、心肺蘇生法などの技能を身につけている。
(知識及び技能)
- (2) 傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し、自他の危険の予測を基に危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択しそれらを伝え合うことができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 傷害の防止について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組むとともに、自らの生活に生かそうとしている。
(学びに向かう力、人間性等)

3 指導にあたって

(1) 単元について

私たちは日常生活の事故や自然災害に巻き込まれて、けがをしたり命を落としたりする危険性がある。傷害の発生には様々な要因があり、それらに対する適切な対策や危険を予測することができれば、事故や災害を防いだり、被害を最小限に抑えたりすることができる。また、応急手当は傷害の悪化を防止でき、命を救うことができる。本単元は実際に傷病者を目の前にした時に、適切な判断の基に命を救う応急手当ができるように緊急時の対処の仕方や実践力を高めることをねらいとしている。

緊急時、救急隊員が到着するまでの間に AED を使用することで、救命率は2倍以上高くなると言われている。そのため、緊急時には AED の使用を啓発されており、誰もが AED の扱いができるようにすることは必要である。本単元では AED の使用を含む心肺蘇生法実習を行い、緊急時の対処の仕方や胸骨圧迫の行い方など、基本的な知識・技能を身に付けられるよう計画した。また、現在、実技科目で学習中の「水泳」時での事故対応や、学校生活において人が傷害を負った場合の適切な対処法を考えることも重要と捉えた。学校内の様々な場面で傷害を負う事案が発生した場合の対処法について、生徒に考えさせ、生徒間で共有し実践に繋げられるようにしたい。

(2) 生徒について

省略

(3) 指導について（研究主題との関連を含む）

日常生活での傷病の予防について理解を深め、安全な生活に対する意識を高める（自助）と同時に、人がけがをしていたり倒れたりしていた局面での適切な対処法（応急手当）についての基本的な知識と方法を学び、実践につなげられるようにしたい。また、実習に重きを置くことでより確実な技能の定着を図りたいと考えた。

〈視点1「主体的・協働的に学びたくなる探究課題の設定」について〉

- ・心肺蘇生法の習得が生命の尊さを実感する教育の一環として位置づけられている。中学2年生は、思考力・判断力が発達する段階にあり、「自他の生命を守る行動」について実践的に考える力を

育成することが求められる。また、保健分野における心肺蘇生法の授業と、体育分野において同時期に行われている水泳授業を有機的に関連づけることにより、生徒の主体的な学び、そして必要感を促進し、日常生活につながる自分事として捉えさせ、考えを深めさせていく。

〈視点2「思考・判断・表現する場面の設定」について〉

- ・心肺蘇生法は実際に身体を用いて学ぶ技能でありながら、動作の精度や適切さを主観のみで判断することが難しい。そこで、本時では、ICTを活用して生徒自身の実技を撮影・振り返りさせる手法を導入し、それにより生徒がチェックポイントを意識しながら主体的に自らの技能を高められるよう方向づけしていく。
- ・心肺蘇生法は実践的な身体技法でありながら、緊急時には状況判断や周囲との連携が必要不可欠である。そのため、実習の中で「協力しながら対応する力」を育てることは、現実的な行動力につながる。同時に生徒が互いに支え合い、高め合う雰囲気を作り出し、協働的に学べるよう支援していく。

4 指導と評価の計画（全2時間）

時数	学習活動	評価（◎記録に残す評価、○指導につなげる評価）			
		知	思	主	評価規準
1	・応急手当には、けがや病気の悪化を防ぐなどの意義について学ぶ。 ・応急手当の基本として、状況に応じた手当があることをプリントにまとめる。 【実習】 ・ペットボトルを用いて、胸骨圧迫の実習を行う。ICTで撮影	○		○	・緊急時に適切な応急手当で傷害の悪化を防止できることについて、理解したことを言ったり書いたりしている （知・技）
1 本時	・前回の胸骨圧迫の自分の動作を動画を見ながら評価する。 【実習】 ・心肺蘇生法の実習を班ごとに行う。（胸骨圧迫練習教材） ・班ごとにアドバイスをしあう。	○	◎	○	・心肺停止に陥った人に遭遇した時の応急手当に胸骨圧迫などの心肺蘇生法があり、その方法について理解したことを言ったり書き出したりしているとともに、実習を通して心肺蘇生法ができる。 （知・技）（思・判・表）

※主体的に学習に取り組む態度の評価は、単元全体を通して総括することとする。

5 本時の指導

（1）目標 応急手当における心肺蘇生法の流れについて理解し、ロールプレイの実習を通して、基本的な心肺蘇生法を正しく実践できる。

（2）指導過程

学習活動 【学習形態】 発問（○）、指示（△）	予想される生徒の反応（●）、教師の手立て（・）、 評価（◎）
1 前時を振り返る（10分） ○応急手当にはどんなものがあるか。 ○緊急な事態に遭遇したら、対応できるか。 △前時に行った胸骨圧迫の動きの動画をタブレットで確認し、チェックリストで評価しよう。 △「強さ・速さ・絶間なく」を意識しても	●やってきたがあまりおぼえていない。 ●自信がなく、対応できない。心肺蘇生法の流れを覚えていないので対応できない。 ●心臓マッサージをする ・電子黒板に流れのフローチャートを映し、確認する。 ・チェックポイントの確認 1. 肘を垂直に伸ばし、胸骨は5cm下がる「強さ」 2. 1分間に100～120回の「速さ」

う一度やってみよう。 本時のねらいを確認する。【全体】	3. 継続して「絶え間なく」 ●肘が垂直ではなく、膝をつく位置が遠い ●リズムが速い ●ずっと続けていると疲れる。 ・正しい形を見せる。 ・メトロノームで胸骨圧迫のリズムを確認する。（1 分間に 1 0 0 回と 1 2 0 回の速さ）
【課題】 応急手当における、心肺蘇生法の流れを理解し、基本的な心肺蘇生法を実践できるようになろう。	
2 班で下記①を中心にした⑤までの役割を分担し、役割を交代しながら順番にロールプレイングする。（2 0 分） ①要救護者発見から胸骨圧迫をし、AED 使用まで動きと他者への指示 ②救急車を呼ぶ人 ③AED をとりにいく人（AED 実施者） ④様態の観察（および胸骨圧迫交代者） ⑤実習の様子を見てアドバイス （動画撮影） 【個→小集団】 △見本を見せるので、ワークシートを見ながら確認してください。 ○「絶え間なく」を継続するためにはどのようにするといいか。 3 学習を振り返る【個】 △本時の学習を振り返り、身についたと思うことを書き出そう。また学習カード評価シートを使って自己評価をしてみよう。	◎応急手当に胸骨圧迫などの心肺蘇生法があり、その方法について理解したことを言ったり書き出したりしているともに、実習を通して心肺蘇生法ができる。 ●ロールプレイングでとっさに言葉がでなかったり、動作ができなかったりする。 ●一人で胸骨圧迫を続けるのはつらい。 ・⑤評価者が動画をとり、振り返り材料を作らせる。 ・「絶え間なく」を継続するために、どのような工夫ができるか全体に投げかける。 ・実習後半で④の観察者は①が止まってしまったときに、次の動きのアドバイスをしてもよいと伝え、評価基準に達していない生徒の支援を心がける。 ・学習カードにて生徒が自らの学びを項目立てて、自己評価できるようにする。

6 事後研究会

助言者 山形市立第二中学校 伊藤重和教頭

- 生徒の反応が良かった。
- 電子黒板が有効活用されている。
- ビブス、説明書が分かりやすく、教材準備が素晴らしかった。
- 生徒がしっかり動いていた。
- 本時の目標は「流れの理解」それについては達成できていた。
- 楽しみながら協力しながらの目標は達成できた。
- △「正しく実践する」点では、一度止めて確認する必要があった。
- △事前にいい例・悪い例の差が分かるとよかった。
- △ICT は視覚的に分かりやすいが、分かるとできるは違う。実際に技術的な向上につなげることが大切。
 - 掌の堅いところを触ってみるなど工夫ができるとよい。
 - ・AED 財団の「心止村湯けむり事件簿」で復習をしてもよい。